

い患者発生に際する危機管理対応の研究が進められるところであり、そこで得られる知見は、我が国での患者隔離病棟と高度安全病原体診断施設の連携についても活かせるところと考える。

米国においては、ナショナルラボとして、大型の BSL4 施設の建設がアトランタ、ヒューストン、モンタナ等の各地で行われているが、BSL3 実験室と BSL4 施設を組み合わせ、電子顕微鏡、解剖台、MRI などを BSL4 に入らずとも利用できるような新しい工夫も施された研究施設が設けられている。このような施設では、H5N1 について BSL4 で取り扱うなど、十分な高度安全施設を有する基盤をもとにした研究の充実強化が図られている。以上、ドイツ、イタリア及び米国において BSL4 施設を活用した病原体の研究が推進されている中、BSL4 施設の稼働が困難な我が国では研究の遅れが危惧され、その結果、一類感染症対策の遅れが生ずることが懸念される状況である。少なくとも、新しい BSL4 施設の関連技術の情報収集については今後とも怠りなく進めることが不

可欠と考える。

C 研究結果

一般的に、研究評価を行う際には、評価の時期、評価の目的、評価項目（対象）、評価を行う者の選定、評価方法について検討し、それぞれの研究特性に適合した組み合わせを用いることにより行われる。平成 18～19 年度新興・再興感染症研究事業については、昨年度に続き、事前評価委員会及び中間・事後に関しては、主任研究者からこの間における研究成果の発表いただき、併せて評価委員会を実施した。また、その実施にあたっては、他の研究事業との比較・検討及び過去の問題点等を踏まえ、改善を試みた。

D 結論

新興・再興感染症研究事業の評価において、研究事業の評価方法に関する資料の収集・分析及び評価委員会の運営を通して、より適切な評価を行うための手法についての有益な所見が得られた。